

第四章 基礎づくりから隆盛期

大正末期から昭和の初め頃は、わが庭球部は硬式の基礎づくりの時代であったと言える。大正十五年に農大新聞が創刊され、その中に庭球部関係の記事が記載されているので「農友」と併せてそれを列記する。

昭和二年五月二十七日、夜十時二分上野発列車でアルプス高く天をつく松本高校へ遠征した。青木主将（前O・B会長）以下森口、高橋、松田、林川、清水のメンバーであった。

昭和二年十月九日、大井見晴台コートで慶応クラブと再び対戦し、十対四で大勝した。

農大 慶応

シングルス

№1 青木（4―6 6―8）岡崎○
 №2 高橋（6―2 3―6 0―6）佐浦○

№3 森口（1―6 2―6）南○
 №4 ○清水（3―6 6―4 6―3）今田
 №5 ○松田（6―2 6―2）三浦
 №6 ○田中（6―1 6―3）渡部
 №7 ○林川（6―4 6―2）中田
 №8 ○高尾（6―3 6―2）竹下
 №9 ○左居（6―2 8―6）中井
 №10 ○古屋（6―4 6―1）恒吉

ダブルス

№1 ○青木・高橋（7―5 6―3）岡崎・福田
 №2 ○森口・田中（7―5 6―0）佐浦・南
 №3 ○清水・松田（6―2 6―3）三浦・中井
 №4 林川（0―6 6―2）中止
 早川 今田

古屋 (6—8 6—2 4—6) 多田
照井 渡辺 ○

対青山学院秋季定期戦は、接戦の末、四対五で惜敗した。

十月十五日から部内行事である S・A カップ 争奪戦 (青木杯) が挙行されたが、決勝は次のスコアを以って田中正六 (専一農) が優勝した。

○田中 (6—1 6—4 6—1) 森口

これより先、十月三日から、上井草コートで東日トーナメント (毎日トーナメントの前身) が行われ、各選手は活躍した。主な成績は次の通り

清水……三回戦で立大平沢氏に三—六、七—五、四—

六で惜敗

森口……三回戦で帝大の河島選手に敗れる。

青木……一回戦から、高師三谷、青学小浜、三菱倉庫

栗木の各選手を接戦の末撃破したが四回戦にシードの早大永光選手に惜敗した。

昭和三年五月の農大新聞には合宿に関して次のような記事がある。

庭球部便り

吾が部は来るべきスポーツシーズンに備へるべく例年通り四月一日より十日間相州鶴沼海岸東家コートに於て春季合宿練習をなす愛球家長谷川、久米、田中諸氏の顔振れも吾々の合宿を賑やはした練習時間は午前八時より午後四時迄とし先づ最初森口主將の合宿に關する左の注意により練習は始められた。

『本年度は豫想以上の部員諸兄の來集を謝すと共に今後益吾が部の爲に活躍の程を乞ふ、就ては此の合宿中は眞面目に特に研究的に練習していただき度い、今後の農大庭球部の盛衰は君達の双肩にあるのだ來るべきトーナメントもある故に云々』

簡單ではあつたがその元氣に餘る言葉、それは主將として吾々を指導するに充分であつた。その熱心なる心句の發路とも云はうか一日くの練習振りは實に眞面目にして大に得る處あり、森口、林川、左居氏等は云ふに及ばず新人選手の研究的練習は其の効ありてか古屋選手の

美事なる上達にはコーチ以下部員等しく認め得るものあり今春に於ける彼の試合振りは期待されてゐる。尙下手であるも五十嵐氏の研究心の強さには吾々皆驚かされた。未來の彼を思はせられる。斯様に精神的技術的兩方面の研究をモットーに時には雨の爲詩の國をさまよひつゝも猛練習を重ねし十日の間は初めての人々には規則的な生活は苦しかつたかも知れない。而しお互に自分の技倆を胸に秘めて來るべきトーナメントの策戦を夢見つゝ合宿も無事に終りを告げた。最後に親切にお世話下されし久米、長谷川、田中諸氏に農大新聞紙上にて厚く感謝の意を表す。

尙四月廿八日よりカレッジトーナメント舉行され且つ又青學との定期戦も五月初旬に行ふ豫定なれば愛球家諸兄の御聲援の程を乞ふ。

昭和三年四月二十八日から関東インターカレッジ・オープントーナメントが早、慶、帝、学習院各コートで開始されたが結果はあまり振わなかつた。

五月二十日、大倉高商と対戦した。当日は風が強くコ

ンデイションは甚だ悪かつたが四対三で勝った。スコアは次の通り。

農大 大倉高商

シングルス

- | | | | | |
|-------|----------|-----|-----|-----|
| No. 1 | 森口 (6-2) | 2-6 | 3-6 | 中西○ |
| No. 2 | 林川 (0-6) | 6-3 | 6-8 | 依○ |
| No. 3 | 松田 (6-3) | 6-1 | | 武田 |
| No. 4 | 高尾 (6-0) | 6-3 | | 岡 |
| No. 5 | 照井 (6-0) | 6-1 | | 小脇 |

ダブルス

- | | | | |
|-------|-------------|-----|-------|
| No. 1 | 森口・松田 (4-6) | 3-6 | 中西・依○ |
| No. 2 | 林川・照井 (6-2) | 6-0 | 岡・小脇 |

五月二十三、二十四日両日対青山学院と春季定期戦を行った。スコアは次の通り

農大 青学

シングルス

- | | | | |
|-------|----------|-----|-----|
| No. 1 | 森口 (2-6) | 3-6 | 福井○ |
| No. 2 | 松平 (6-8) | 4-6 | 高野○ |
| No. 3 | 照井 (1-6) | 4-6 | 小浜○ |

№4 松田 (1—6 1—6) 間島○

№5 ○林川 (不詳) 高橋

№6 ○高尾 (9—7 6—2) 園村

ダブルス

№1 森口・松平 (0—6 5—7) 福井・高野○

№2 ○林川・照井 (7—5 6—4) 小浜・高橋

№3 松田・左居 (3—6 5—7) 間島・斉藤○

六月六日、新入生歓迎試合ならびに校内大会を軟球にて行い、盛会であった。当日の優勝者は、新入生小野・

奥山組、在校生金井・金井組であった。

六月十六、十八日、対一高戦を行い、五対四で勝つ、スコアは次の通り。

農大 一高

シングルス

№1 松平 (4—6 4—6) 藤瀬○

№2 森口 (3—6 3—6) 宿利○

№3 林川 (3—6 8—6 1—6) 鈴木○

№4 ○田中 (6—1 6—2) 黄

№5 ○照井 (6—3 6—0) 山田

№6 ○高尾 (6—2 6—4) 神山

ダブルス

№1 松平・森口 (2—6 7—9) 藤瀬・宿利○

№2 ○林川・古屋 (6—4 3—6 6—4) 鈴木・神山

№3 ○田中・照井 (6—4 6—1) 黄・山田

六月十七日には慶応倶楽部と対戦し、三度大勝した。

七月十日から鎌倉オープントーナメントが挙行された。

シングルスで森口は三回戦まで勝ち進んだが松尾選手に七—五、四—六、三—六で敗れた。又、林川はハンデキヤップの三回戦で今田選手 (大井クラブ) に五—七、四—六のスコアで惜敗した。

九月一日から十日間相州鵜沼海岸東家コートで合宿を行った。この合宿に当り鈴木・三氏の別邸を拝借し、お世話になった。

九月二十四日対青山学院定期戦を挙行し、四—五で敗れた。スコアは次の如し。

農大

青学

シングルス

No. 1 森口 (4-6) 4-6 福井○

No. 2 松平 (6-8) 4-6 高野○

No. 3 田中 (4-6) 6-4 7-5 小濱

No. 4 林川 (キケン) 間島

No. 5 照井 (6-4) 6-3 高橋

No. 6 古屋 (キケン) 齊藤

ダブルス

No. 1 松平・森口 (4-6) 3-6 福井・高野○

No. 2 田中・照井 (6-4) 4-6 5-7 小浜・高橋○

No. 3 林川・古屋 (4-6) 6-4 2-6 間島・齊藤○

十月二十日から東京日日新聞社主催のトーナメントがあり、多数出場したが強豪を相手に善戦の末、敗れた。シングルスで森口が三回戦まで勝ち進んだが関学の吉岡選手に、ダブルス三回戦で林川・照井組が慶大の山岸・志村組に敗れた。

十一月二十七日、対慶応クラブ戦を行った。過去三連

勝している相手だったが一進一退の接続で試合終了は正に五時二十分、西の空から十六夜の月が出る頃、わが部は松平、田中の不出場もあって七対八で敗れた。

昭和五年、新緑の生気を受けて、シーズンの皮切りに先般日庭協会の公認を受けた御隣の青山学院との定期戦を五月八日正午から青学コートで行い多年の宿望が成って五―四で勝つ。

農大 青学

ダブルス

No. 1 照井・古屋 (6-4) 6-2 小濱・間島

No. 2 黒瀬・住谷 (0-6) 5-7 内田・岡田○

No. 3 富永・大木 (6-1) 6-3 高田・柳

シングルス

No. 1 古屋 (2-6) 5-7 小濱○

No. 2 照井 (6-4) 6-4 間島

No. 3 富永 (9-11) 1-6 岡田○

No. 4 大木 (7-5) 3-6 6-2 内田

No. 5 黒瀬 (4-6) 6-8 柳○

No. 6 住谷 (6-1) 8-6 山田

なお五月十七日、対外語戦は、五対〇で勝ったが、一セットも与えず、ストレートの完勝であった。

なお、極東大会に、照井、古屋、富永、五十嵐らが審判として参加した。

六月一日に工業大学に大勝した。この試合で初陣五十嵐は健闘し勝利を得た。

六月六日から関東インターカレッジ・トーナメントが始まり、シングルスに照井、大木、黒瀬、住谷が、ダブルスに住谷・黒瀬組が出場したが武運悪く、照井を除く外は惜敗した。しかし、照井主将は二回戦で優勝候補、法政大学の野坂選手を三時間余の接戦の末、ついに一六、六一四、六一四のスコアで破った。続いて青学の間島選手と対戦したが前試合の疲労が未だ抜けず惜敗したのは残念だった。

六月十六日正午から校内大会を開始、曇天であったが三十二組の参加者で盛況であった。

六月二十五日に納会を開き、この季節の終りとした。

このあと夏休みになり鎌倉トーナメントや全日本インターカレッジ・エリート選手権、九月一日から例年通り鶴沼

海岸「東家」で合宿を行い、農大スピリットの養成をした。

昭和六年は、四月一日からの合宿で開始した。例年の通り鶴沼海岸「東家」で十日間、部員一同は総てを忘れ、朝霧の晴れるのを待ち、夕闇迫る迄、照井主将指導の下に猛練習が続けられた。加えて林川、清水の両先輩、長谷川、大藤、板倉の諸氏がわが部のために参加された事は好刺激をもたらした。

この合宿中に先輩林川氏寄贈の農友カップ争奪トーナメントを行い、照井主将が貫録を示し堂々優勝し、カップを獲得した。

四月十五日、新学年を迎え、新入部員が三十名に達し、一面しかないホームコートは毎日一ぱいになった。

四月二十五日、例年の如く青木カップ争奪トーナメントを開始した。新人天の活躍などで好ゲームがあったが最後は照井が黒瀬を六一四、五一七、六一二、六一〇で破り二連勝した。

五月十五日、好敵青山学院と春季定期戦を本学、青学両コートで行った。

この定期戦はローンテニス紙上に認められている程有名なもので、常に一点を争う接戦であった。この年、前例のない七対二のスコアで大勝利を得たので「部員一同は喜び足のふむ所を知らなかった」と当時の記録にしている。

農大

青学

ダブルス

No. 1 ○照井 (4-6 6-3 6-3) 柳岡田

No. 2 古屋・小佐々 (4-6 5-7) 山田・高田○

No. 3 ○澤野・藤田 (9-7 6-4) 井上・河村

シングルス

No. 1 ○照井 (6-4 6-4) 柳

No. 2 古屋 (2-6 3-6) 岡田○

No. 3 ○黒瀬 (4-6 6-4 8-6) 山田

No. 4 ○澤野 (6-2 15-13) 高田

No. 5 ○五十嵐 (6-1 6-2) 河村

No. 4 ○藤田 (3-6 6-1 6-0) 井上

五月下旬、軟式校内大会を挙行、五十組が参加し、例年がない盛会だった。柿原・名塚組が優勝した。

六月上旬、東北選手権大会に照井主将が単複（パートナー早大菅原）に優勝した。この大会は東北の一流が参加していたが、一セットを失っただけで全部ストレート勝ちした。シングルス決勝は次の通り

○照井 (6-2 6-3 6-4) 橋本（福島高商）

六月十五日、法政大学と試合を行う。一流チームとの試合は之が最初である。斯界一流チームを目指して進む様になった吾が部だ。平面的に活躍する基礎時代を既に脱し立体的尖端に向って行路を見出し始めたのだ。即ち勝負の問題ではない。校友諸兄先輩の目が如何に見てくれるかが大問題だ。スコア上でも示す様にシングルスでもダブルスでも接戦し、特に最後の照井対星野の肉薄戦は手に汗をにぎらせた。遂に吾等は負けた。九対〇で完全には負けた。しかし吾等は確信する、吾等は勝てると。是が非でも、きっと勝つ。横井会館ホールで水盃を乾して誓ったはずだもの。

農大 法政

ダブルス

№ 1 照井 (6-4) 1-6 2-6 星野○
黒瀬

№ 2 天・小佐々 (2-6) 0-6 小司・服部○

№ 3 澤野 (6-2) 1-6 4-6 松廣○
藤田 神保○

シングルス

№ 1 照井 (6-4) 4-6 3-6 星野○

№ 2 黒瀬 (1-6) 4-6 小國○

№ 3 澤野 (0-6) 小司○

№ 4 藤田 (8-10) 4-6 服部○

№ 5 古屋 (0-6) 0-6 松廣○

№ 6 五十嵐 (1-6) 2-6 神保○

この試合をシーズンの終りとして夏休みになる。

七月中旬、鎌倉トーナメントに照井、黒瀬が出場したが早大の強者が参加したので苦戦した。

九月一日から十日間、例年の通り鶴沼海岸東家コートで合宿を行い、残暑をものともせず猛練習に励んだ。合

宿中、農友カップトーナメントを行い、照井が優勝しカップを手に入れた。

秋に入るや復讐にもえる青山学院は、試合を申し込んでくる。春に前例のない敗け方をしたので惜しかったのであろう。

九月十八日対戦したが又もや六対三で勝つ。

農大 青学

ダブルス

№ 1 照井 (3-6) 6-3 6-8 柳○
黒瀬

№ 2 澤野・藤田 (6-2) 6-0 山田・高田

№ 3 松崎・天 (6-2) 9-7 難波・富塚

シングルス

№ 1 照井 (4-6) 4-6 岡田○

№ 2 五十嵐 (1-6) 2-6 柳○

№ 3 黒瀬 (6-4) 6-4 高田

№ 4 澤野 (4-6) 6-4 6-1 山田

№ 5 藤田 (9-7) 6-3 富塚

№ 6 天 (2-6) 6-4 6-2 難波

十月二十日、庭球界で有名な立教大学と対戦し三対五で惜くも敗れた。

農大 立教

ダブルス

№1	○黒瀬	(6-1)	3-6	8-6	石井	東
№2	天・小佐々	(3-6)	1-6	伊興田・田中	○	
№3	○澤野	(6-4)	3-6	6-3	岡	廣瀬

シングルス

No. 1	照井	(4-6)	4-6	伊興田	○	
No. 2	黒瀬	(2-6)	6-2	日没	田中	
No. 3	天	(1-6)	1-6	石井	○	
No. 4	澤野	(6-0)	6-1	亀田		
No. 5	藤田	(6-8)	8-6	2-6	大川	○
No. 6	小佐々	(3-6)	2-6	同	○	

この試合、敗けはしたものの関東の一流チームに三対五と肉迫した事は、わが部の誇とするところである。

十月二十七日から神宮トーナメントが始まり多数出場

し照井、黒瀬は三回戦まで進出した。

十一月三日、千葉医大と対抗戦を行い五対三で勝つ、スコアは次の通り、

農大 千葉医大

ダブルス

№1	○照井	(1-6)	6-2	6-4	佐藤	松葉
№2	○澤野・藤田	(6-1)	6-2	岡田・谷口		
№3	天	(6-2)	2-6	2-6	澤井	○
	小佐々	(6-2)	2-6	2-6	大氣	○

シングルス

№1	照井	(6-2)	5-5	日没	佐藤
№2	黒瀬	(4-6)	3-6	松葉	○
№3	○澤野	(6-2)	6-2	岡田	
№4	○藤田	(6-0)	8-6	大氣	
№5	小佐々	(1-6)	棄権	澤井	○
№6	○天	(6-2)	6-2	谷口	

十一月四日、望月クラブと対戦し九対〇で完勝、しかも圧倒的なスコアで勝った。この望月クラブは早大生一

人と慶応の生徒からなるクラブである。

秋季青木カップトーナメントは、過去二度続けて優勝している照井主将が今度優勝すれば彼のカップになるのだ。ところが新人野心家等は彼には取らせまいとがんばったがついに照井の優勝となり、いよいよ青木カップは彼の手に入った。決勝戦のスコアは次の通り

照井（6—4 3—6 6—4 6—0）黒瀬

昭和六年以上のような好成績をおさめ得たのは校友並びに諸先輩（特に林川氏）のご声援が大きな原因である。

尚、当時の照井主将の横顔を「農大新聞」は次のように報じている。

庭球部 照井敏雄君

氏は雪の花咲く、花巻温泉の近くに生ひ立ちて、一ノ關中學にてすでに東北庭球界の麒麟児とうたはれ戦ふ處敵もなくつひに東北中等學校軟球大會の榮譽ある優勝旗を母校に飾り身は優勝杯を獲得し關中の照井として華やか

な中學時代を過ごした野心満々、いで東都にてと彼も内心早稻田、慶應をねらつて居つたかもしれぬが農村の指導者となり父君の業を繼がんと決心し本校へ入學した時昭和二年の陽春。

時の庭球部は喜んだ彼を中心として往年の名譽を取りかへさんと時の主將青木氏等は熱心に硬球のフォームにつき指導した。

然るに彼も又東北人の氣質を多分に持つて居る、軟球に對する自信もあり、なか／＼硬球のフォームには當はまらない。

先輩も苦心した、彼も又苦心したその苦心の結果彼一流のフォームを編み出した。

今諸君があのコートで練習して居る彼について注目したならば充分うなづかれることゝ信ずるがあれまでになる彼の過去四年間の努力や思ふべし。

遂に彼は昨年鎌倉トーナメントに決勝戦まで漕ぎつけた。記者は本年の彼の活躍を刮目して期待する乞ふ讀者諸君よ。

彼の自重と活躍を期待あれ。

さて記者も少し肩も凝つて來た。春爛漫だ。ぐつと碎けて彼の趣味といこう。

御覽の如く彼は「馬」と稱される説明は要しないだろう。銀座でも馬、飯田橋でも馬、赤坂でも馬、オ、一九三一年よ

馬のタンゴだ、ワルツだ

さて飲む方は随分自信ある様だが部の主將として今シーズンの活躍のため随分我慢してゐる様だ

以上の外は記者の知る限りにあらず

唯彼の趣味は、庭球だと思へば間違ひないと思ふ。

古屋マネージャの病氣のため對外的にも又對内的にも一切、自身で處理して行く彼も骨の折れる立場にある様だ。部員の指導には非常に熱心にガン／＼どなつて居る。でもみんな黙々として誰一人不平をいふ人もなく和氣霽々、楽しく愉快に技を磨いて行く庭球部員は幸福だ
唯コートの一つなのが残念だと常に彼は言っている

この冬は暖氣に恵まれ、コート使用可能のため学校コート及び中目黒の貸コートを利用して冬季特別練習をし

た。

昭和七年一月青山「いろは」で卒業生送別会を舉行した。

そして、来るべきシーズンに備え、更に陣容を整え、主將に黒瀬紀重、マネージャーに松崎俊一、會計に藤田明正、記録に小佐々快介が就任し、四月一日から鶴沼海岸「東家」で合宿を行う。合宿も終りに近い八日、意義深い第三回農友カップ争奪戦が林川氏のコート開き兼ねて舉行された。このカップは先輩林川氏寄贈によるもので、来賓、先輩、部員の間でトーナメントに依つて争奪戦が行われるのである。今回も又照井が獲得した。この合宿に林川先輩、照井前主將、長谷川、大藤の諸氏が練習に参加指導下されたのは非常な収穫であつた。

四月十八日、青山学院と春季定期戦を舉行した。この対校定期戦は早慶、帝商の定期戦に次ぐ斯界の重要な試合である。

わが軍は遂に九対〇で青学を破った。前例のない堂々たる全勝に部員一同狂氣乱舞して喜んだ。スコアは次の通り

農大 青学

ダブルス

- №1 ○照井・黒瀬 (8-6 6-2) 岡田・富塚
 №2 ○澤野・藤田 (7-5 6-3) 高田・川村
 №3 ○小佐々・松崎 (9-7 10-8) 難波・片田

シングルス

- №1 ○照井 (6-4 6-3) 岡田
 №2 ○黒瀬 (5-7 6-0 6-1) 高田
 №3 ○澤野 (6-2 6-3) 川村
 №4 ○藤田 (6-3 6-2) 難波
 №5 ○小佐々 (6-4 6-1) 富塚
 №6 ○天 (6-4 6-0) 片山

四月二十五日から大井トーナメントが開始され、照井、黒瀬は早、慶、明の諸強豪を倒し、準決勝に残る

準決勝

- 照井 (9-7 6-1) 三上 (慶応)
 黒瀬 (2-6 0-6) 岡田 (青学) ○
 決勝

照井 (1-6 2-6) 岡田 ○

定期戦に勝っている相手に敗れ、照井にとって泣くに泣けないものであった。この大会でこの他に天もよく善戦し四回戦まで進んだ。

五月十八日は昨年秋に九対〇で散散の苦杯をなめさせられた法政大学と春季定期戦を行った。結果は三対六で再敗だったが次のスコアの通り接戦だった。

農大 法政

ダブルス

- №1 黒瀬・澤野 (1-6 4-6) 小国・中野 ○
 №2 ○照井 (6-4 4-6 6-3) 素谷・大谷
 №3 ○藤田・天 (7-5 6-3) 神保・山崎

シングルス

- №1 照井 (4-6 2-6) 小国 ○
 №2 黒瀬 (4-6 7-5 3-6) 松廣 ○
 №3 澤野 (5-7 4-6) 小司 ○
 №4 ○小佐々 (3-6 9-7 6-4) 神保
 №5 藤田 (4-6 4-6) 服部 ○

No. 6 天 (4—6) 4—6 中野〇

六月十日から関東新人トーナメントが始まり澤野が善戦して準々決勝で惜敗した。

九月一日から十日間、鵜沼海岸「東家」で合宿を行い黒瀬主将以下九名が参加し、青木、林川両先輩、長谷川氏の激励で充実した練習が出来た。合宿の終りに開催された農友トーナメントは今回も照井が優勝した。

十月一日、第十八回対青山学院定期戦を挙行した。選手部員が炎暑ものともせず猛練習するのも只この一戦があるからだ。

農大

青学

ダブルス

No. 1 〇照井 (3—6) 6—0 6—1 岡田
黒瀬 石井

No. 2 〇澤野・藤田 (6—1) 6—4 難波・片山

No. 3 〇小佐々・天 (6—2) 6—0 川村・富塚

シングルス

No. 1 照井 (1—6) 1—6 岡田〇

No. 2 〇黒瀬 (6—4) 6—1 川村

No. 3 〇澤野 (6—2) 6—3 富塚

No. 4 〇藤田 (6—4) 6—1 片山

No. 5 〇小佐々 (9—7) 6—3 難波

No. 6 〇天 (6—4) 6—1 岩立

以上のスコアーのとおり八対一で又と勝利の栄冠を得た。

十月十三日、千葉医大と対戦し全勝した。この試合にNo. 6に大竹が出場、六—二、六—〇で勝った。

十月二十五日、応援団諸兄の見送る上野駅をあとに一行七名は東北遠征に出発した。仙台駅で先輩伊藤、佐藤、両氏の出迎えを受けて境屋旅館に宿泊、翌二十六日、東北帝大と対戦したが四対五で敗れた。「敗因は相手を軽く見たようだ」と当時の記録にのしるしてある。

前日惜敗した選手は二十七日、第二高等学校を相手に八対一で大勝した。

農大

二高

ダブルス

№ 1 ○ 黒瀬・大竹 (6—4 6—3) 瀬川・小泉

№ 2 澤野 (3—6 6—0 3—6) 田隅
藤田 田治米 ○

№ 3 ○ 小佐々・天 (6—4 6—0) 柳澤・千代延

シングルス

№ 1 ○ 黒瀬 (6—1 6—1) 瀬川

№ 2 ○ 澤野 (6—3 6—4) 田治米

№ 3 ○ 藤田 (11—9 6—2) 小泉

№ 4 ○ 天 (7—5 6—3) 田隅

№ 5 ○ 小佐々 (6—4 6—0) 柳澤

№ 6 ○ 大竹 (8—6 7—5) 千代延

二十八日、仙台から盛岡へ行き、先輩川崎自省氏の出迎えを受け、めんどろを見てくれ夜は川崎、村井、及川、的場、谷口の諸氏が歓迎会を開いてくれ、部員一同感激した。

三十日、盛岡高等農林学校と対戦し九対〇で快勝し、東北遠征は終り三十一日、応援団諸兄及び残留部員の出迎えている上野駅に到着した。尚照井は東北選手権大会

に出場し優勝した。スコアは次の通り

準決勝

照井 (6—2 7—5) 田中 (東北帝大)

決勝

照井 (6—3 1—6 8—6 9—7) 富永

(山高)

十一月、関東学生新進トーナメントに黒瀬主将は活躍し決勝で早大の三浦選手に敗れたが二位となった。

一方照井はローンテニス社主催の記者、マネージャー庭球大会に出場して優勝した。

昭和八年、寒風厳しい一月一日から十日迄鶴沼海岸東家コートで冬季合宿を行った。参加者は黒瀬主将以下、

小佐々、松崎、天、大竹の五名

二月末、青山三丁目の「いろは」で送別会を開催した。昭和八年度の役員は

部長 廣部達三 顧問 田辺英治 主将兼農友会幹事

黒瀬紀重 副主将 小佐々快介 マネージャー 松崎俊

一 会計 松崎俊一 坂内八郎 記録 小佐々快介 山

崎 東

春季合宿練習は四月一日から鶴沼海岸東家コートに於いて、花に狂う帝都を尻目に部員一同猛練習を開始した。朝露にボールをぬらし夕べの星の輝き始める頃迄涙ぐましい程の練習が続いた。又、長谷川氏の熱心な指導で大いに腕を上げた。

合宿も終りに近く林川杯トーナメントを行い黒瀬が優勝した。そのあと開かれた全日本学生選手権大会に出場した黒瀬は三回戦まで進んだ。一方冬期、春期と合宿し鍛えに鍛えた腕をもったわが部は好敵手青山学院と四月二十日定期戦を行い七対二で大勝した。スコアは次の通り

農大 青学

ダブルス

№1	○黒瀬・大竹	(6—4)	川村・富塚
№2	○小佐々・天	(6—3)	岩立・片山
№3	○澤野・坂内	(6—4)	五味・大村
	シングル		
№1	○黒瀬	(3—6)	6—4
			7—5
			川村

№2	小佐々	(4—6)	3—6	富塚
№3	○天	(6—3)	6—3	片山
№4	○澤野	(6—2)	6—4	木村
№5	○大竹	(9—7)	6—2	岩立
№6	松崎	(4—6)	2—6	五味

大井トーナメントには、多数参加し善戦した。特にダブルスで長谷川、澤野組が決勝で南、渡辺組(大井クラブ)に六—三、三—六、六—八で敗れ二位になった。又、シングルスでも決勝で小佐々が南選手に三—六、四—六で敗れ二位となった。

好調なわが部は六月四日、強敵法政大学に挑戦した。青木、林川両先輩、長谷川氏も応援にかけつけてくれたがわが軍の攻撃も敵の好守に妨げられ三度敗退した。

スコアは次の通り

農大 法大

ダブルス

№1	黒瀬・澤野	(1—6)	4—6	中野・服部
№2	○小佐々・天	(7—5)	6—3	廣部・小林

No. 3 大竹・坂内 (4—6 3—6) 谷口・吉田○

シングルス

No. 1 黒瀬 (1—6 6—3 5—7) 中野○

No. 2 澤野 (3—6 2—6) 服部○

No. 3 坂内 (0—6 3—6) 廣部○

No. 4○小佐々 (6—4 6—2) 谷口

No. 5 天 (3—6 3—6) 小林○

No. 6○大竹 (6—3 6—0) 渡辺

鎌倉トーナメントに出場するため鶴沼海岸「東家」で合宿し試合に望んで皆善戦した。特に長谷川、黒瀬組は準決勝まで進出した。

秋季合宿を例年通り鶴沼海岸東家コートで九月一日から十日間行つた。遠く富士の秀峯を望み、近くに江ノ島を眺めて部員一同は熱砂に骨を焼く残暑の太陽の下に猛練習にいそしんだ。林川先輩や来賓、長谷川、松田、大藤、関口の諸氏も加え林川杯争奪戦が盛大に開かれた。

九月二十九、三十日、第二十四回対青山学院定期戦が挙行された。過去二ヶ年半すなわち五シーズンを連勝し

て来たわが軍に心のどこかに弛みがあった。その隙に敵の乗ずるところとなつて敗れ、夕闇迫るコートで敗者の悲哀を感じた。尚、スコアは次の通り

農大 青学

ダブルス

No. 1○黒瀬 (6—1 4—6 6—0) 川村
大竹

No. 2○小佐々 (6—4 5—7 6—3) 富塚
天

No. 3 松崎・坂内 (3—6 0—6) 木村・五味○

シングルス

No. 1 黒瀬 (4—6 6—0 1—6) 川村○

No. 2○小佐々 (6—0 6—2) 富塚

No. 3 天 (4—6 1—6) 岩立○

No. 4○大竹 (6—4 6—3) 片山

No. 5 坂内 (3—6 0—6) 木村○

No. 6 山崎 (0—6 0—6) 五味○

若人日本、スポーツ日本の豪華版明治神宮体育会は十月二十七日から開催され善戦した。ダブルスでは小佐々

・天組が三回戦で全日本選手権保持者牧野・村上組と当り敗退した。

十一月十一日からローンテニス社トーナメントが開催され、大いに気を吐いた。特に大竹はシングルスで早、明の強豪を破り準決勝で法大廣部選手と対戦し惜敗したが「若冠大竹活躍」と新聞に載った。

昭和九年一月、屠蘇の香未だ消えやらぬ五日から鶴沼海岸東家コートでレギュラー合宿を行った。

二月三日、黒瀬主将以下四名の卒業生送別会が青山三丁目の「いろは」で盛大に開催された。

在学中活躍した人の関連記事が農大新聞に次のように載っている。

黒瀬紀重君

福田君と言っても知る人はいないだらうが庭球部のクロと云へば何んだノ 彼か……と云ふであらう。

日焼けした丸顔に象の様な目の持主の彼は始終ニコくくと愛嬌を振りまいて憎めない人間だ。農大六ヶ年——専門部より学部へ——本学の庭球部の為に健闘して来たのだ。芸は身を助けるとか、毎夏軽井沢

で振り廻すラケットで某製菓会社のお嬢さん感激せしめて流行の轉向で黒瀬から福田姓へなったのだ相で卒業後は其会社の女工監督になると……

——（農大新聞より）——

昭和九年度の役員は次のように決った

部長 廣部達三 顧問 田辺英治 主将兼農友会幹事
小佐々快介 マネージャー 坂内八郎 会計 山崎 東
記録 菊池善一、大竹一男、曾我順吉

今春から関東学生庭球連盟では加盟校を三部に分けてリーグ戦を行う事になった。

一部 早大、慶応、明治、帝大

二部 法政、立教、商大、（一校欠員）

三部 その他の加盟校全部

一部及び二部は四校を原則とし、今回三部の優勝校は無条件で二部になる事が出来る。

吾が部は意外にも第三部に編成せられていた。なに養ッノ 吾等の真価を知れとばかり一同の憤慨はその極に達した。そして熱戦の幕は切って落された。

第一回戦は新学期始まって間もない四月十四、十五日の両日、日本大学と対戦した。冬、春の合宿で鍛えた腕に狂いはなく七対二で大勝した。スコアは次の通り

農大 日大

ダブルス

No. 1 ○小佐々・天 (7-5 6-4) 太田・八木

No. 2 ○大竹・山崎 (3-6 6-1 6-2) 佐藤・織田

No. 3 ○坂内・曾我 (3-6 6-3 6-2) 仁藤・石田

シングルス

No. 1 ○小佐々 (6-3 6-1) 太田

No. 2 ○天 (6-4 6-4) 八木

No. 3 ○大竹 (6-0 6-2) 織田

No. 4 ○坂内 (2-6 6-4 6-3) 佐藤

No. 5 曾我 (2-6 7-5 4-6) 仁藤○

No. 6 山崎 (3-6 6-3 4-6) 石田○

四月二十二、二十三日、第二回戦を横浜専門学校と対戦し、六対三で勝った。

農大 横専

ダブルス

No. 1 ○小佐々・天 (4-6 8-6 6-1) 芦谷・平山

No. 2 ○大竹・山崎 (6-2 6-2) 小貫・山崎

No. 3 曾我・坂内 (3-6 3-6) 山路・松尾○

シングルス

No. 1 ○小佐々 (6-2 6-2) 平山

No. 2 ○天 (6-1 6-3) 荒谷

No. 3 ○大竹 (7-5 6-3) 小貫

No. 4 ○坂内 (7-5 1-6 6-1) 山崎

No. 5 曾我 (0-6 1-6) 山路○

No. 6 山崎 (0-6 2-6) 松尾○

四月二十九、五月一日の両日、リーグ準決勝戦、対拓殖大学戦を挙行、六対三で勝利を得て決勝戦に臨んだが文理大に敗れ優勝の王座を獲得することは出来なかった。文理科大学は当然二部にあるべきガッチリしたチームであった。

準決勝、対 拓殖大学戦

農大 拓大

ダブルス

- No. 1 ○小佐々・天 (6-2 6-1) 尾根山・五十嵐
 No. 2 ○大竹・山崎 (6-0 6-2) 大國・押川
 No. 3 曾我・坂内 (3-6 3-6) 大野・馬場○

シングルス

- No. 1 ○小佐々 (6-2 6-4) 尾根山

- No. 2 ○天 (棄権) 押川

- No. 3 ○大竹 (6-1 6-1) 大國

- No. 4 坂内 (6-4 3-6 3-6) 五十嵐○

- No. 5 曾我 (7-9 6-3 3-6) 馬場○

- No. 6 ○山崎 (2-6 6-4 6-4) 大野

第三部決勝 対 文理大戦

農大 文理大

ダブルス

- No. 1 ○小佐々・天 (6-4 6-2) 吉村・神居
 No. 2 坂内・曾我 (0-6 1-6) 楡木・篠崎○
 No. 3 大竹・山崎 (2-6 3-6) 小島・福池

シングルス

- No. 1 ○小佐々 (6-2 5-7 6-4) 吉村

- No. 2 ○天 (8-6 6-3) 楡木

- No. 3 大竹 (5-7 7-9) 福居○

- No. 4 曾我 (2-6 3-6) 篠原○

- No. 5 坂内 (1-6 1-6) 小島○

- No. 6 山崎 (0-6 1-6) 堀池○

以上の結果、二位になったため、二部にはなれなかった。

五月十九、二十日 青山学院定期戦を行い五対四で勝つ、この試合に初めて新人秋山を起用した。彼の外に鈴木、百武、佐々木、村田等が将来を囑望されている部員がいる。

スコアは次の通り

農大 青学

ダブルス

- No. 1 ○小佐々・天 (8-6 6-4) 片山・金子
 No. 2 大竹・坂内 (1-6 3-6) 五味・木村○



四校リーグ記念 (昭10.6.23)

№ 3 曾我・山崎 (0—6 4—6) 福本・小島○

シングルス

№ 1○小佐々 (2—6 6—0 6—2) 片山

№ 2○天 (6—3 8—6) 五味

№ 3 曾我 (1—6 2—6) 木村○

№ 4○大竹 (9—7 6—3) 小島

№ 5 秋山 (2—6 2—6) 金子○

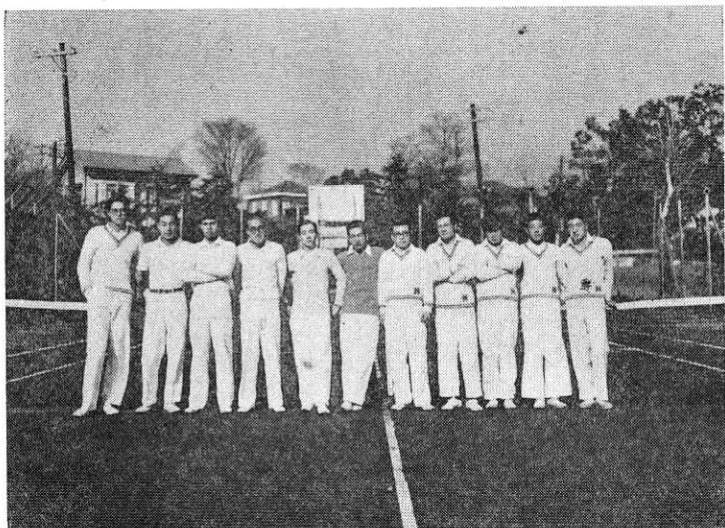
№ 6○坂内 (6—3 6—4) 福本

先に行われたリーグ戦で三部に残った千葉医大、日大、拓大と共に三省堂に集い、ここに四校リーグが誕生した。

第一回戦は千葉医大を七対二で破り、続いて拓大にも六対一で連勝した。第三戦の対日大戦は四対四のまま延期となり、当然勝てる試合も相手に戦意なく如何ともなす術がなかったが十二月末になって日大遂に棄権したため五対四で勝ち、全勝で四大学優勝盃を獲得した。

九月一日から十日間、例年の通り鶴沼海岸東家コートで合宿練習を行い秋のシーズンに備えた。

対青山学院秋季定期戦は十月十三、十四日に舉行され



常磐松コートの勢ぞろい（昭11.春）

た。この試合で天と坂内を就職と盲腸炎で欠き苦戦し遂に二対七で敗れた。

十一月四日、遠征軍桐生重工を迎え撃った。惨敗の苦盃を嘗めたばかりの我部一同は此の遠征軍を粉碎して本年度の対校戦の最後を飾るべくベストを尽し、一点を与えただけで八対一で大勝した。

昭和十一年は地味ではあるが確固たる歩みを続けているがわが部にとって収穫は大きかった。三シーズン連敗している青学定期戦に春秋とも勝って雪辱し、又大竹主将は全日本選手権大会に出場の栄を勝ち得た。これはわが庭球部有史以来初めての事であり、わが部史を一層光輝あるものにすると同時に後進への大きな刺激となるものである。

又関東学生選手権大会、関東学生新進大会には全部員出場し、学生庭球界に於ける確固たる存在を示した。その他、関東選手権大会、関東学生庭球リーグ戦、ローンテニス社トーナメント、新進トーナメント等に出場し、四大学リーグ戦に於いて優勝杯を獲得した。

部内に於いては春秋の合宿を各十日間行い各大会に備えると共に部員の親睦をはかるのに役立った。

以上が本年度の概略であるが五月には先輩諸氏の努力で常磐松クラブが創立し、先輩と学生の連絡が益々親密を加え先輩間の会談の機会をつくる事が出来るようになった。

昭和十一年は次の通り

関東学生庭球リーグ戦

多年の宿望、二部昇格を目指して猛練習をして来た。

「今年こそは！」の意気に燃え、先ず専修大学を倒したが続く対一高戦で意外の敗戦を喫し、第三戦対東医大に勝ったが二勝一敗となって三部に留まる事になった。スコアは次の通り

対専修大学戦

農大 6—3 専大

ダブルス

No. 1 大竹 (3—6 6—2 3—6) 長谷川
秋山 (見山) ○

No. 2 ○山崎・鈴木 (6—1 6—3) 中根・五十嵐
No. 3 ○増田・原田 (6—2 6—0) 稲見・三瀬

シングルス

No. 1 大竹 (3—6 2—6) 長谷川 ○

No. 2 ○山崎 (6—2 5—7 6—1) 見山

No. 3 ○秋山 (6—1 6—1) 五十嵐

No. 4 鈴木 (5—7 1—6) 中根 ○

No. 5 ○原田 (6—0 6—1) 稲見

No. 6 ○増田 (6—0 6—0) 三瀬

対一高戦

農大 4—5 一高

ダブルス

No. 1 ○大竹・秋山 (6—3 6—2) 森・曾良

No. 2 山崎・鈴木 (4—6 2—6) 石田・小山 ○

No. 3 ○原田 (4—6 6—4 6—3) 眞下
増田 (江口)

シングルス

No. 1 ○大竹 (6—3 7—5) 曾良

No. 2	山崎	(5—7)	0—6	森○	
No. 3	秋山	(5—7)	4—6	小山○	
No. 4	鈴木	(6—2)	5—7	4—6	江口○
No. 5	原田	(3—6)	4—6	石田○	
No. 6	増田	(6—2)	8—6	眞下	

対東医大戦

農大6—3東医

ダブルス

No. 1	大竹・秋山	(6—1)	7—5	岡田・瀬越
No. 2	山崎・鈴木	(6—3)	6—2	福原・亀山
No. 3	増田	(4—6)	7—5	6—2
	原田			山田 橋本

シングルス

No. 1	大竹	(6—3)	6—8	4—6	岡田○
No. 2	山崎	(6—2)	6—3		龜山
No. 3	秋山	(5—7)	4—6		福原○
No. 4	鈴木	(3—6)	5—7		瀬越○
No. 5	原田	(6—2)	6—0		橋本

No. 6	増田	(6—4)	8—6	山田
-------	----	-------	-----	----

対青山学院春季定期戦

農大6—3青学

ダブルス

No. 3	No. 2	No. 1
○原田・増田	鈴木山崎	秋山大竹
(6—3)	(2—6)	(6—3)
6—3	8—6	4—6
(3)	3—6	6—1
大谷・柴田	矢上○	渡辺福本
	土屋	

シングルス

No. 1	○大竹	(6—3)	7—5	福本	
No. 2	山崎	(6—2)	3—6	2—6	矢上○
No. 3	○秋山	(6—1)	6—4	土屋	
No. 4	○鈴木	(6—2)	7—5	渡辺	
No. 5	原田	(1—6)	4—6	柴田○	
No. 6	○増田	(6—2)	10—8	下道	

四大学リーグ開始以来三ケ年を迎え、これから盛大になろうとしたところ、日本大学が棄権したため解散し、

新たに拓殖大学並びに千葉医科大学と定期戦を交える事になった。

第一回の対戦は共に八対一のスコアで連勝し優勝杯を獲得した。

対青山学院秋季定期戦

農大6―3青学

ダブルス

No. 1 ○秋山・大竹 (6―2 6―1) 土屋・福本

No. 2 ○鈴木
山崎 (6―8 6―4 6―2) 染田
大谷

No. 3 ○原田・増田 (6―3 9―7) 渡辺・矢上

シングルス

No. 1 ○大竹 (6―4 6―0) 福本

No. 2 山崎 (3―6 2―6) 矢上○

No. 3 ○秋山 (6―3 6―2) 土屋

No. 4 ○鈴木 (6―2 6―4) 大谷

No. 5 原田 (4―6 6―4 4―6) 下道○

No. 6 増田 (0―6 4―6) 柴田○

新進トーナメントは十月十八日から慶、明コートで行われ秋山、鈴木、佐々木、百武、増田、原田、井本らが出場し活躍した。

全日本選手権大会

十月二十八日から早、明両コートに開かれ全日本の猛者六十四人に限定された我国最高権威であるこの大会に大竹一人出場資格の名譽を得た。不運にも一回戦でシードットプレーヤー明大塚田選手と対戦し、一―六、一―六、六―四、一―六で惜敗したが農大最初のオールジャパンプレーヤーとして名譽であり、農大庭球部史上に燦然と光輝を放つに到った。

常磐松クラブの創立

多年の希望であつたこのクラブも五月に先輩諸氏の努力で遂に成立し次の役員が誕生した。

会長 平松部長 顧問 田辺英治、針塚卯八 理事長 原田太郎 理事 山田幾治、青木定雄、林川喜代士、福田紀重、坂内八郎、以上先輩 山崎 東(学生)



小田原合宿（昭.13）

昭和十二年は四人の有力な先輩を送り出し聊か淋しい感があったが、多数新入部員を迎え心気一転、練習に励んだ。

春秋のシーズン初めに当って各十日間の合宿練習を行い、各大会に備え、部員の実力養成と親睦を図るために努力した。

春のリーグ戦に於いて優勝こそ逸したが得点において三部の二位の成績であった。

又関東選手権大会、関東学生選手権大会をはじめ東日、明治神宮及びローンテニス社等の各トーナメントに多数出場し各部員が大いに活躍した。

しかしながら春秋二期の青山学院定期戦に苦杯を喫した。リーグ戦の覇権と共に今後大いに奮励努力し、必勝を誓った。

昭和十三年のわが部の収獲は大きかった。春の関東学生リーグ戦に堂々全優勝し、昭和九年リーグ戦開始以来初の制覇を実現し、不幸二部との昇降戦に破れはしたも

のゝわが部にとって一段階を録したものと云える。更に又、春秋の対青山学院との定期戦に於いて圧倒的なスコアで之を破り、昨春秋、定期戦第三十回を記念して寄贈に預かった渋谷区長杯を頂き、秋の拓殖大学との定期戦にも鎧袖一触の状であった。

春秋の両シーズン初めには小田原、東伏見に合宿し、各十日間猛練習を行ない、技術の向上と団体生活訓練をして目的達成のため努力した。

又個人的には関東選手権大会、関東学生選手権大会、新進トーナメント、東日トーナメント、ローンテニス社ほか各トーナメントにも多数の部員が出場して活躍した。先に諸先輩に依って創立された常磐松クラブを通じて先輩間並びに先輩と学生間の連繋が益々緊密になり、部発展に好影響を与えている。以上が昭和十三年の概要である。

○卒業生送別会

一月三十一日、日比谷三信ビル東洋軒に於いて開催された。この席上、都合に依り平松部長が辞任され、新た

に谷本先生を迎える旨、内定発表があった。

○春季合宿練習

わが部に馴染深かった鶴沼海岸東家コートが都合上使用出来ず、此の度は三月二十二日から十日間、小田原町益田氏コートで行った。雨が多く十分な練習も出来なかったが新任部長や諸先輩が激励に参加された。

○関東学生庭球リーグ戦

年中行事最大の行事であるリーグ戦は来た。今年こそはの意気に燃えて、先ず第一戦に宿敵青山学院を一蹴し次いで専修を倒し、更に一高を退けてここに昭和九年リーグ戦開始以来初の全勝制覇を達成した。

スコアは次の通り

対青山学院戦(第三十一回定期戦も兼ねる)

農大8—1青学

ダブルス

No.1 ○秋山・井本(6—1) 片山・野瀬

No.2 ○佐藤・鈴木(9—7) 古澤・渡辺

No.3 ○黒田・大森(6—0) 6—1 大山・村田

シングルス

- No. 1 ○秋山 (6—0) 渡辺
 No. 2 ○鈴木 (6—0) 野瀬
 No. 3 ○黒田 (6—4) 大山
 No. 4 ○佐々木 (6—1) 6—2) 村田
 No. 5 ○佐藤 (2—6) 6—1) 6—2) 片山
 No. 6 大村 (8—10) 0—6) 古澤○

対専修大学戦

農大5—4専修

ダブルス

- No. 1 秋山・井本 (0—6) 1—6) 五十嵐・見山○
 No. 2 ○佐藤・鈴木 (6—0) 6—1) 水野・山田
 No. 3 黒田・大森 (6—8) 4—6) 重田・長谷川○
 シングルス

- No. 1 ○秋山 (1—6) 6—2) 6—1) 五十嵐
 No. 2 井本 (1—6) 0—6) 見山○
 No. 3 ○鈴木 (棄権) 山田
 No. 4 ○黒田 (6—1) 6—3) 長谷川
 No. 5 ○佐々木 (6—0) 6—0) 水野

- No. 6 佐藤 (6—2) 4—6) 4—6) 重田○
 対一高戦

農大7—2一高

ダブルス

- No. 1 ○秋山・井本 (6—2) 6—1) 平賀・加藤
 No. 2 ○原田・鈴木 (6—1) 7—5) 安川(義)・前田
 No. 3 ○黒田 (4—6) 7—5) 6—2) 安川(信) 中澤
 大森

シングルス

- No. 1 ○秋山 (6—2) 6—0) 安川(義)
 No. 2 ○鈴木 (6—1) 6—3) 平賀
 No. 3 ○黒田 (3—6) 6—1) 6—1) 前田
 No. 4 佐々木 (1—6) 2—6) 加藤○
 No. 5 佐藤 (3—6) 2—6) 安川(信)○
 No. 6 ○大森 (3—6) 6—2) 6—2) 西村

以上の結果、三部に優勝し、破竹の勢いを以って二部の最下位校文理科大学に入替試合を挑んだが、ダブルスにリードしながらもシングルス一つしか取れず二部昇格

はならなかった。

二部三部入替戦

農大3—6文理大

ダブルス

No. 1	○秋山大森	(6—2)	3—6	6—4	小島間宮
No. 2	原田鈴木	(4—6)	6—2	2—6	小川茂木
No. 3	○黒田佐藤	(3—6)	7—5	7—5	野村稲葉

シングルス

No. 1	○秋山	(6—4)	6—0	小島
No. 2	原田	(3—6)	0—6	茂木
No. 3	鈴木	(1—6)	0—6	小川
No. 4	佐々木	(6—4)	1—6	1—6
No. 5	黒田	(2—6)	6—8	間宮
No. 6	大森	(3—6)	4—6	野村

五月三十日、遠征中の同志社高商と対戦し三対二で勝ち、関東学生新進トーナメントにも多数出場し活躍した。このあと六月十九日春季納会を「いろは」で行い、谷本

部長、田辺、原田、青木、林川、福田、山崎、増田の諸先輩の御出席を得て盛大であった。

秋季合宿は、東伏見クラブコートで九月三日から十日間、部員全員が参加して行い秋のシーズンに備えた。

対青山学院秋季定期戦は三十二回を数え、七対二で勝って通算十五勝十七敗となった。

関東学生新進トーナメントに出場した黒田は四回戦まで進んだが本大会の優勝者立教大の木立選手に敗れた。

十月十七、十八日、拓大と二年振りに対戦し、八対一で快勝した。尚拓大は四部の覇者で来春は三部に昇進する事が決っている。

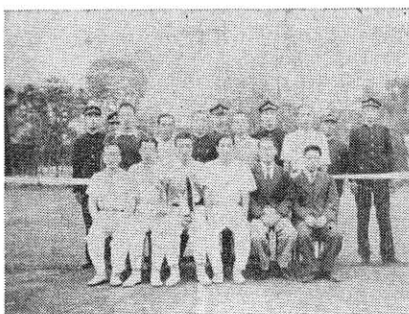
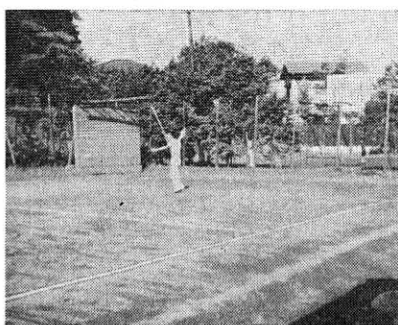
こうして昭和十三年の行事も終え十一月二十日、秋季納会を行った。日中はマッチを挙行し、夜は「いろは」で会合する。当日は部の先輩坂内氏の凱旋歓迎会を兼ねる筈であったが御都合悪く御出席を得なかったが谷本部長、はじめ田辺、原田、林川、福田、山崎、増田の諸先輩の御出席及び全部員出席して頗る盛会であった。

昭和十四年、そろそろ戦時色を帯びて来て昭和九年に

開始された関東大学リーグ戦もゴムの統制によるボールの不足から実施不能となり、主なトーナメント以外は各校共最も重要な対校戦だけを何とか少いボールを都合し合って挙行する程度となった。

関東学生選手権、関東学生新進トーナメント、ローンテニスクラブ、トーナメント等部員それぞれ参加奮闘した。又対抗戦の成績は三勝一敗であった。スコアーは次のとおりである。

常磐松時代のコート



対青山学院春季定期戦 四月二十九・三十日

農大6-3青学

ダブルス

No. 1 原田・佐々木 (3-6・5-7) 大山・柴田

No. 2 黒田・大森 (6-3 6-0) 村田・小山

No. 3 井本 (3-6 6-1 7-5) 古沢
大村 片山

シングルス

No. 6 大森 (6-0 6-1) 関



No. 5 大村 (2—6 6—2 1—6) 片山○

No. 4 ○井本 (9—7 6—0) 二宮

No. 3 ○佐々木 (6—1 6—2) 古沢

No. 2 ○原田 (3—6 6—2 6—4) 村田

No. 1 黒田 (1—6 2—6) 大山○

対青山学院秋季定期戦十月七・八日

農大6—3 青学

ダブルス

No. 1 ○井本・原田 (6—4 6—3) 大山・片山

No. 2 ○佐々木・佐藤 (6—3 6—4) 村田・小山

No. 3 ○黒田・大森 (6—2 6—3) 古沢・二宮

シングルス

No. 1 佐々木 (4—6 4—6) 大山○

No. 2 ○原田 (6—2 6—1) 村田

No. 3 ○井本 (6—3 9—7) 古沢

No. 4 黒田 (6—4 1—6 6—8) 片山○

No. 5 ○佐藤 (6—2 6—4) 関

No. 6 大村 (4—6 6—4 0—6) 二宮○

対拓植大学戦 十月十九・二十日

農大8—1 拓大

ダブルス

No. 1 ○佐々木
原田 (6—4 3—6 7—5) 須藤
荒井

No. 2 ○黒田・佐藤 (9—6 6—3) 小島・竹居

No. 3 ○井本・大村 (6—4 6—1) 野村・斉藤

シングルス

No. 1 井本 (2—6 4—6) 須藤○

No. 2 ○原田 (6—1 6—0) 荒井

No. 3 ○佐々木 (3—6 8—6 6—4) 斉藤

No. 4 ○佐藤 (6—4 1—6 8—6) 小島

No. 5 ○黒田 (6—1 6—0) 竹井

No. 6 ○大村 (6—2 6—1) 野村

対文理科大学戦 十月二十九日

農大4—5 文理大

ダブルス

No. 1 井本・原田 (5—7 1—6) 小島・間宮○

№ 2 佐々木 藤 (7-5) 3-6 2-6 佐野 馬橋○

№ 3 ○黒田 大森 (3-6) 8-6 7-5 野村 平井

シングルス

№ 6 佐藤 (4-6) 2-6 佐野○

№ 5 ○黒田 (6-2) 6-0 野村

№ 4 大森 (0-6) 2-6 平井○

№ 3 ○井本 (6-3) 4-6 7-5 馬橋

№ 2 ○原田 (6-3) 6-4 間宮

№ 1 佐々木 (4-6) 2-6 小島○

昭和十五年、満洲事変、支那事変といよいよ戦局も慌しく、ゴムの統制によりボールは遂に配給制度となり、ニューボールは試合の時位にしか使えなくなった。個人トーナメントのセットボールの配給が行われる状態であった。従って昨年に続き二、三のトーナメントの外は全勝した対校試合四戦を行ったのみであった。特に秋季対青学戦に9対0で完勝したのは特筆に値する。

春は東伏見で特別練習、9月には小田原で一週間の合

宿を行った。

本年中の対校試合のスコアは以下のとおりである。

対青山学院春季定期戦 四月十三―十五日

農大8―1青学

ダブルス

№ 1 ○佐藤・佐々木 (6-3) 6-0 古沢・片山

№ 2 ○原田 森下 (6-1) 2-6 6-1 小林 関

№ 3 ○黒田 大森 (6-1) 6-2 二宮 小山

シングルス

№ 1 ○原田 (6-1) 6-3 古沢

№ 2 ○佐々木 (6-3) 6-4 片山

№ 3 ○黒田 (6-2) 6-2 二宮

№ 4 ○佐藤 (6-3) 6-0 関

№ 5 城島 (5-7) 5-7 小林○

№ 6 ○大森 (6-2) 6-3 小山

大勝し栄ある渋谷区長杯を獲得した。

対第一高等学校戦 十月六日

農大5—4—高

ダブルス

No. 1 黒田 (5—7) 6—4 2—6 豊原
大森 丹野○

No. 2 横森 (6—1) 3—6 6—1 土井
森下 中橋

No. 3 城島・千代 (6—4) 6—3 戸畑・芝柳

シングルス

No. 1 黒田 (6—1) 4—6 2—6 丹野○

No. 2 森下 (1—6) 3—6 豊原○

No. 3 大森 (10—8) 8—6 中橋

No. 4 城島 (6—3) 6—0 榊

No. 5 千代 (6—2) 6—0 土井

No. 6 横森 (2—6) 6—4 5—7 戸畑○

対青山学院秋季定期戦 十月十二日

農大9—0 青学

ダブルス

No. 1 佐藤・佐々木 (6—2) 6—1 古沢・渡辺

No. 2 黒田 (6—0) 4—6 7—5 加藤
大森 二宮

No. 3 原田・森下 (6—2) 6—4 小山・関

シングルス

No. 1 原田 (6—2) 6—4 古沢

No. 2 佐藤 (7—5) 6—4 片山

No. 3 佐々木 (6—3) 6—4 関

No. 4 黒田 (6—3) 7—5 二宮

No. 5 大森 (2—6) 10—8 6—2 小山

No. 6 城島 (9—7) 6—4 中村

対外国語学校戦 十月二十日

農大5—3 外語

ダブルス

No. 1 黒田・大森 (6—1) 6—4 小森谷・佐藤

No. 2 森下・横森 (4—6) 3—6 安田・蒲田○

No. 3 城島・千代 (6—1) 6—2 落合・菅原

シングルス

No. 1 黒田 (6—2) 6—8 2—2 小森谷
(日没中止)

No. 2 ○大森 (6—4 6—1) 佐藤
 No. 3 ○城島 (6—2 6—1) 安田
 No. 4 千代 (6—4 5—7 7—9) 落合○
 No. 5 森下 (4—6 6—0 4—6) 菅原○
 No. 6 ○宇野 (6—3 10—8) 蒲田

昭和十六年、大東亜戦争突入の年である。卒業も十七年三月卒業の者は繰上げとなり十二月末に卒業式を行い、軍務につくことになった。

わが部も東京農業大学報国農友会鍛練局庭球部と言うものものしい名称となり、全学生が何れかの運動部に所属しなければならなくなり、庭球部も部員は一挙に二〇〇名となった。

常磐松のコートは校舎建築のため使えなくなったため、青山車庫裏の市電のコートを三面借用していたので、二〇〇名の練習も何とか実行でき、心身鍛練道場として役立った。

本年はそれでも二、三の個人トーナメントに出場すると共に、伝統ある春秋の対青山学院戦及び対商科大学戦

を挙行することができた。対抗試合のスコアは次のとおりである。

対青山学院春季定期戦 四月二十六・二十七日

農大5—4 青学

ダブルス

No. 1 ○黒田 (6—8 6—3 6—2) 渡辺
 No. 2 城島・千代 (1—6 9—11) 小山・中村○

No. 3 ○森下 (2—6 6—2 6—4) 橋本
 サワット

シングルス

No. 1 ○黒田 (6—2 0—6 6—3) 片山

No. 2 ○大森 (6—4 10—8) 小山

No. 3 城島 (8—10 4—6) 中村○

No. 4 サワット (4—6 3—6) 渡辺○

No. 5 森下 (2—6 6—1 3—6) 橋本○

No. 6 ○千代 (6—4 6—3) 小野

対青山学院秋季定期戦 九月二十・二十一日

農大6—3 青学

ダブルス

No. 1	黒田・城島	(6—4 5—7 6—3)	片山・橋本
No. 2	千代・麻生	(4—6 2—6)	小山・渡辺○
No. 3	大森・森下	(6—4 3—6 3—6)	中村・青柳○

シングルス

No. 1	黒田	(6—2 6—3)	片山
No. 2	城島	(6—4 6—3)	小山
No. 3	大森	(6—4 4—6 6—2)	中村
No. 4	森下	(3—6 2—6)	渡辺○
No. 5	麻生	(6—4 6—2)	青柳
No. 6	千代	(6—1 6—1)	橋本

対商科大学対抗戦 五月八日

農大0—9商大

ダブルス

No. 1	黒田・城島	(2—6 4—6)	二木・安藤○
No. 2	千代・大森	(1—6 1—6)	滝鼻・矢野○
No. 3	麻生・森下	(0—6 1—6)	山崎・矢定○

シングルス

No. 1	黒田	(1—6 1—6)	二木○
No. 2	大森	(1—6 1—6)	安藤○
No. 3	城島	(2—6 1—6)	滝鼻○
No. 4	森下	(2—6 0—6)	矢野○
No. 5	千代	(7—5 5—7 3—6)	山崎○
No. 6	麻生	(1—6 0—6)	安東○

十月十七日、対拓大戦を市電のコートで行ない、わが部は新人軍で対戦し、ダブルス一対二、シングルス四対二、計五対四で勝利をおさめた。

尚、対工大戦、一高戦もボール不足で実現出来ず、十一月に「東日トーナメント」に黒田主将以下多数出場し頑張った。

昭和十七年の役員は次の通りである

主将 城島靖之 幹事兼マネージャー 昌子多助
 会計 調 友輔 阿部哲夫
 記録 麻生 昇 サワット
 この頃、テニスは敵性スポーツという事で弾圧を受け、

部員も少なく、又、ボール、ラケット、靴などは店先から姿を消してしまった。そして五月二日、歴史と伝統を誇る対青山学院との第四十八回定期戦を行い、これが戦前の最後の試合となり、そのあと「いろは」で庭球部の解散会を行なった。

この試合のスコアは次の通り

農大 6―3 青学

ダブルス

No. 1 ○城島
サワット (6―3 6―2) 橋本
喜多村

No. 2 ○調・麻生 (7―5 6―1) 安宅・江口
No. 3 杉山・泉 (6―8 4―6) 田・西山○

シングルス

No. 1 ○城島 (6―1 6―2) 橋本
No. 2 ○調 (7―5 6―1) 安宅
No. 3 ○サワット (6―2 6―1) 西山
No. 4 ○麻生 (6―2 6―1) 喜多村
No. 5 杉山 (3―6 6―3 4―6) 江口○
No. 6 泉 (4―6 7―5) 永瀬○